



京浜港湾事務所

工事名 横浜港臨港道路（南本牧はま道路）緊急復旧工事

施工会社 五洋建設株式会社 東京土木支店

令和元年台風15号発生時、走錨した船舶が衝突する事故が起こり、南本牧はま道路（橋梁部分）は甚大な被害を受けました。

同道路は、南本牧ふ頭にとって重要な物流道路です。損傷した箇所を迅速に復旧するため、夜間工事も実施し、**5月7日に供用を再開**することができました。

さらに、今後同様の事故を防ぐため、橋梁を防護する**ジャケット式防衝施設**を新たに設置し、復旧工事の全ての作業を終えることができました。



南本牧はま道路（位置図）

BEFORE&AFTER

損傷時の様子



船舶が衝突した部分は損傷が激しく、道路面も大きく歪み、通行が不可能な状態になっていました。

まずは損傷部の撤去を行い、各工場で製作したパーツを設置し路面の仕上げ、という流れで工事を進めて、約半年で事故前のように通行可能となりました。ジャケット式防衝施設は、橋梁の北側に10基設置しました。

復旧後



ジャケット式防衝施設が、船舶の橋梁への衝突を防ぎます。



復旧までの流れ



・路面がめくれ上がった損傷部



・損傷部分を取り除き、歯抜けになった部分にパーツを設置



・補修した部分の路面の仕上げ



・防衝施設の基礎である鋼管杭



みなんのココが気になる！

**“走錨”はどうして起こるの？
防ぐ方法はないのかな？**

船舶は停泊時、錨を下ろして船が動かないようにします。それが台風等で風や波の影響を受けると、錨ごと船が流されてしまう“走錨”が起こります。

防止するためには、適切な錨泊位置を選ぶ等の入念な対策が必要ですが、災害の規模にもよるため、走錨を絶対に防ぐことは難しいのです。

現場より



五洋建設株式会社
工事所長
小濱 隆一郎さん

工事着手から、5月の連休明けまでに道路の供用開始、台風シーズン前までに防衝施設の着手など、常に時間との勝負でした。そのため様々な作業船を駆使し、鋼床版やジャケット等の製作工場を分散させる等の工夫をしました。

短期間に70～100人/日の作業員が従事していたので、作業間の連携や安全意識の共有、日々変化する現場に即応した安全設備等、現場の安全管理には細心の注意を払いました。